

2020年度特別講義

「デジタル社会に求められる人材」



主催：情報工学部 知能情報工学科

後援：校友会、経友会、知湊会(旧経工会)

目次

1. こんな時だからこそ.....3
2. 開講にあたって.....4
3. 講演実施スケジュール.....5
4. 第1回（10/13）.....6
 パネルディスカッション「DX時代に求められる人材」 佐藤正春氏、鈴木康弘氏、挽野元氏
5. 第2回（10/27）.....13
 「ネット業界最新サービス動向とオールアバウトグループの戦略」 江幡哲也氏
6. 第3回（11/10）.....18
 「ポストコロナ時代のDXシナリオ」 磯村康典氏
7. 第4回（11/24）.....22
 「ロボティクス技術が変えていくこれからの世界」 挽野元氏
8. 第5回（12/8）.....28
 「学生時代と社会人時代の違い」 服部健一氏、Sung-Hoon Kim氏
9. 第6回（12/22）.....33
 「就職前に身につけておきたいアントレプレナーシップ（起業家精神）とは？」 大野高氏、白石健太郎氏
10. 全体を通しての感想.....39
11. 講演者の詳細プロフィール.....45
12. 過去の特別講義(アーカイブ).....54

1. こんな時だからこそ



森 博彦
情報工学部
知能情報工学科
主任教授

この1年はCOVID-19感染拡大で日本人が過去に経験したことのない年になりました。おそらく皆さんもこれほど家にいたことはないかと思います。学生の中にも感染者が出ました。また、近い人を亡くされた方もいらっしゃると思います。心からお見舞い申し上げます。

それでも我々は道を切り開いていかなばなりません。幸いにも残ることのできた人は、新しい社会、新しい価値を生み出し続けなければならないのです。

この1年で大学や会社、そして社会が急激に変化しました。ICT技術を用いた社会はもう以前に戻ることはないでしょう。それならば、日本人初の経験をした皆さんは新しい時代のエポックメーカーになれるはずです。

この講義はこれまでに社会のエポックメーカーになってこられた先輩からのメッセージです。先輩からのメッセージを胸に、みなさんがエポックメーカーになることを期待しています。

2. 開講にあたって

「人生100年時代」が叫ばれています。また、AIなどの発展・普及により「2045年にはシンギュラリティ(技術的特異点)が到来する」とも言われています。

この過去に誰も経験したことのない時代の真っ只中で学んでいる皆さんにとって、「これからの未来」をしっかりとイメージし、「そのために何をしていくか？」を考えることが非常に大切です。

本特別講義では、今、各界で活躍していらっしゃる東京都市大学出身の方々から直接お話を伺うことにより、皆さんにとって「これから活躍していくための貴重な気付き」が得られるものと期待しています。

なお、本特別講義は2011年に鈴木威一先生が始められ、その後、松崎吉衛先生が引き継いでこられた特別講義「グローバル社会における経営」の流れを引き継ぐものです。参考のため末尾にアーカイブを添付しました。



芝 正孝

情報工学部

知能情報工学科

特任教授 博士(工学)

mshiba@tcu.ac.jp

3. 講演実施スケジュール

日程		内容	講演者(敬称略)	所属
☆	9/29	ガイダンス	芝 正孝	東京都市大学 情報工学部 知能情報工学科 教授
1回	10/13	【パネルディスカッション】 DX時代に求められる人材 注)DX: Digital Transformation	鈴木 康弘 (1987電気)	【パネラー】(株) デジタルシフトウェーブ 代表取締役社長, (株) SBIホールディングス 社外取締役, (一社) 日本オムニチャネル協会会長
			佐藤 正春 (1971経営)	【パネラー】チェンジ・エージェント・オフィス正春 代表 レイヤーズ・コンサルティング 顧問
			挽野 元 (1992電気・修士)	【司会】 アイロボットジャパン(同) 代表執行役員 社長
2回	10/27	ネット業界最新サービス動向と オールアバウトグループの戦略	江幡 哲也 (1987電気)	(株) オールアバウト 代表取締役社長 兼 CEO
3回	11/10	ポストコロナ時代のDXシナリオ	磯村 康典 (1993機械)	(株) トリドールホールディングス 執行役員 CIO/IT本部長 (株) トリドールビジネスソリューションズ 代表取締役社長
4回	11/24	ロボティクス技術が変えていく これからの世界	挽野 元 (1992電気・修士)	アイロボットジャパン(同) 代表執行役員 社長
5回	12/8	学生時代と社会人時代の違い	服部 健一 (1966機械)	Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP, Senior Partner, 米国弁護士, Juris Doctor
6回	12/22	就職前に身につけておきたい アントレプレナーシップ(起業家 精神)とは?	大野 高 (2001環境情報)	(株) 東急エージェンシー 事業推進本部 事業企画局 事業推進部 兼 オープンイノベーションラボ ユニットリーダー
			白石 健太郎 (2001環境情報)	朝日メディアラボベンチャーズ(株) 投資担当ディレクター
☆	1/12	まとめ	芝 正孝	東京都市大学 情報工学部 知能情報工学科 教授

第1回（10/13）

パネルディスカッション ～DX時代に求められる人材～

DX: Digital Transformation



司会とパネラー



【司会】
挽野 元氏
(1992電気・修士)
アイロボットジャパン(同)
代表執行役員社長



【パネラー】
佐藤 正春氏
(1971経営)
チェンジエージェントオフィス正春
代表
元 (株)富士通総研
代表取締役社長



【パネラー】
鈴木 康弘氏
(1987電気)
(株)デジタルシフトウェーブ
代表取締役社長

ディスカッションでの発言要旨(1)

【DX時代とは？】

- (鈴) ICTで業界の壁が壊れる。「伸びる業界は？」との質問はナンセンス。
- (佐) DXという言葉に惑わされないように。経営革新におけるキーワードは昔から変わっていない。DXは経営革新であり永遠に終わらない。Business Transformation by Digital Technology.
- (鈴) 言葉は変わっても、業務革新の中身は同じ。通信環境と処理速度が変わり、働き方が変わってきたことが大きい。
- (佐) 過去の資産が大きい会社は変わらない。経営者に強い危機感がある、若い人たちが変えたいという気持ちを持っている会社だけが変われる。
- (鈴) リアルとネットの融合は、顧客の体験を変え、選択肢を増やすものだと考えよう。



【DX時代と個人の関係は？】

- (鈴) 終身雇用が崩壊し、個人の時代になる。自分の市場価値を高めることが必要。
- (佐) 日本ではこれまで「やった者が負け」だったが、これからは、何もしないことは失敗と同じ。エジソンは「失敗という経験はない。ただ、うまくいかなかったというたくさんの経験をただけ」と言っている。
皆が良いというものはやらない。事例は、その背景を学ぶべき。
- (鈴) 会社は新しい風を求めている。違う業界にどんどん挑戦してほしい。



ディスカッションでの発言要旨(2)

【転職について】

- (鈴) 「石の上にも3年」は言いて妙。3年で現状がわかる。7年である程度その道が究められる。そして、10年で新たに自分で何かをやるようになる。
- (佐) 「転社」と「転職」は違う。大企業では自分を成長させるために、色々な仕事を経験できる。楽しい仕事を求めるのではなく、仕事を楽しくすることを考えよう。



【学生の皆さんへのアドバイス】

- (佐) 成功の条件:「仕事は選ぶな」「一番風呂に入れ」「特定の上司や派閥に属すな」。就職の際には「WHY, WHAT, HOW」が話せるようにしよう。何か聞かれたら、まず、「三つある」と言って、その間に考えよう。調整役やファシリテーション役になる際は、「藁人形」になり、相手に意見をすべてぶつけさせよう。
- (鈴) 「行動すること」が大切。まず、行動により周りの信頼を獲得しよう。仮に仕事で失敗しても命を取られることは無い。相手の土俵で勝負しよう。その時、皆に、「今」ではなく「未来」を語ろう。何にでもチャレンジしよう。優先度をつけるなら「自分で何かアウトプットできるもの」
- (佐) これからは、「想像力」「共感力」「知的対話能力」が大切。
- (鈴) とにかく人生を楽しむこと。結果を恐れずに何度でも行動しよう。



「DX時代に求められる人材とは？」

グループワーク

セッション番号:6

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

チームメンバー(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字):

- ・ 転職する際に、いままでいた業界とは違う業界に進出することで、能力を半分持っていく。
- ・ 「個人の時代」の到来により、主体性があるか。
- ・ 一つの専門性よりも、幅広い視野を持った人。 →ex) 全く興味ない業界の研究
- ・ 教養・基礎知識(リテラシー)は必須→学力向上
- ・ 時代の変化に対して、柔軟に対応できる。 →今後、経験値が必要。
- ・ つねに「新しい風」を自分の中に吹き込み続けること。 →新しいことを受け入れる勇氣
- ・ 問を自分の中に立て続ける(=Whyなど)
- ・ たくさんのことを試すことができる人 →少ないコストでやることから

グループワーク

セッション番号:13

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

チームメンバー(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字):

求められる人材とは

学び続ける人

常に新しい情報や技術を手に入れられるから
柔軟な考え方を持てる
多様な考えを手に入れることができる

リーダー的素質のある人

未来を見据えて行動指示が出来る
仕事をする上でまとめる人が必要

チャレンジや積極性のある人

新しいモノに触れる機会が多い
保守的でないから

技術的なスキルがある人

AIなどの最先端の知識や技術

常識にとらわれない人

柔軟な考え方を持てる
新しい風を吹かせてくれる

パネルディスカッションを聞いての 意見・感想（１）

パネルディスカッションを通してお二人とも恐れずに行動に移して、失敗も経験したがそれを糧にしてきた人たちなのだと教えていただきました。思い返せば自分の今までの人生も、どちらかというと行動に移さず、安全策をとってきたことの方が多いなと感じたので、これからの大学生活や就活においても、失敗を恐れずに行動していこうと思いました。

成功した過去の事例の有無で新しい事業をするかどうか決めるのではなく、すべての事例の背景にあるうまくいった要素、うまくいかなかった要素を調べあげて、それを活かして今までになかった事業をするべきというお話がとても心に残っています。

私の中で一番勉強になったことは、「まずはやってみる、だめだったらやり直す」という考え方である。そして、このサイクルを速くすることがとても大切であるということだ。

意見の合わない人たちをまとめて動かしていくときに、藁人形になる、相手の土俵に入る、未来を語るという3つのキーワードが自分自身に特に響いた。

やりたいと思っていることをまずやってみてうまくいかなかったらやり直すと鈴木さんがおっしゃっていたように、やらないことが損であると理解することができました。そして人から冷笑されようが自分の信じたことをやり通すことが大事であるということも学ぶことができました。

パネルディスカッションを聞いての 意見・感想（２）

日本はまだまだ年功序列があるからこそ、上司の顔を伺いがちだが、そんな中で自分を貫いていくことも大事なのだと改めて思った。

デジタル社会と言われる時代でもまずは人が動かなければ社会も仕事も始まらないということと、その人を動かすのは情であるということを学ぶことができた。現場に足を運んだり、すぐに行動へ移すことで結果や人は後からついてくる。周りからの信頼を得てから行動するのではできることが限られてしまうので、行動しながら信頼を得ていくことができることを学んだ【

この時代に乗るには 1つの分野だけでなく様々なものを取り入れて柔軟にならなければならない。取り入れるだけでなくその中で新しいことをやるには自分の意見をしっかり持って伝えられること。みんなを引っ張っていけるだけのリーダーシップ性の発揮をすることが大切である

考えすぎるよりも行動することを前面に出した方が良い、というお話を聞いて、どこかでためらいを感じている自分を自覚することができました。考えることは必要ですが、たくさん考えたとしてもそれを行動に移せないのならば、成果を出すことはできないため、何事もまず行動することが重要なことだと学びました。

一番印象に残ったのは佐藤さんのおっしゃっていた仕事を選ぶなということだった。というのも自分がなかなかやりたい職業が決められないのは、自分に性が合っている仕事、楽しいと思える仕事は何だろう、と考えてしまうためになかなかやりたいことが決められなかったのである。だから、楽しいと思える仕事を探すのではなく、楽しくさせるような仕事に就こうと思った。

第2回（10/27）

ネット業界最新サービス動向と オールアバウトグループの戦略

江幡哲也氏の講演要旨



【講演者】

江幡 哲也氏

(1987電気)

(株)オールアバウト

代表取締役社長兼CEO

1. 起業家のタイプ

- ・ 社会変革、大義を重視する「アスピレーションタイプ」
- ・ 市場を俯瞰的にみる「コンサルタントタイプ」
- ・ はやりそうなことはまずやってみる「野心家タイプ」
- ・ 自分の好きなことをつきつめる「アーティストタイプ」

2. 日本は1997～98年に「国と企業」から「個人と社会」に社会システムの中心がシフトした。

- ・ 「個人の自立」が必要 ⇒「不安なく」「賢く」「自分らしく」生きる

3. 2000年のブロードバンド、2007年のスマートフォンを経て、2020年は5G, IoT, AI, ブロックチェーンなど非連続な環境変化の時期にある。

- ・ 変革期には大きなチャンスがある。新しいことに挑戦するときに、リスクはあるが、若いうちであれば、実行する価値がある。
- ・ 日本は、中国やインドにも大きく負けていることを認識しよう。
 - 超少子高齢化、英語が苦手、文系社会、既存事業を守る構造など。

4. 就職を考える上のポイント

- ・ 仕事をする上では、「やりたいこと」「できること」「やるべきこと」の3つの輪の中心を広げよう。
- ・ 起業・新規事業(0⇒1)では、「やりたいこと」「できること」「求められること」の3つの輪を考え、ぜひ若いうちにチャレンジしよう。
- ・ 会社を選ぶときには、周りにいる人を見極めよう。若いうちは伸びるマーケットに身を置き、自分もそれに上乗せして成長しよう。

「伸びる産業，衰退する産業」

グループワーク

セッション番号:9

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

チームメンバー(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字):

テーマ:これからDXによって大きく変わる産業は？衰退すると思う産業、伸びると思う産業、これから伸びそうなサービスは？なぜ？その理由は？

伸びる産業

・ 情報産業

- ・ 情報技術を生かすためのDXなためすでにノウハウがある情報技術を扱う会社は有利なのではないか

・ 製造業

- ・ 人の手が入るスペースを極限までなくして効率化できるのではないかな

衰退する産業

・ 機械で代用可能な産業

- ・ わざわざ人間がやらなくても機会にやらせておけばいいから

・ 紙媒体

- ・ オンライン化によりすべてデータ化されるのではないかと考えられるから

・ 伝統工芸産業

- ・ 機械化されてしまい味がなくなる

伸びそうなサービス

・ 通信販売

- ・ DXによってわざわざ外で買い物する必要がなくなる

・ クラウドサービス

- ・ データを持ち歩く必要がなくなるから、また、機器の故障にも強い

グループワーク

セッション番号:7

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

チームメンバー(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字):

テーマ:これからDXによって大きく変わる産業は？衰退すると思う産業、伸びると思う産業、これから伸びそうなサービスは？なぜ？その理由は？

<伸びると思う産業>

・ 不動産業

既存の業務+VR・ARなどのIT活用

・ 金融業

キャッシュレスの進展

・ 教育産業

オンライン授業

・ 健康産業

健康を管理する、健康ブーム

・ Eコマース産業

手軽さ

・ 農業

DXによる効率化、生産性の向上

・ マテハン

Eコマースの盛り上がりに合わせて成長する

<衰退すると思う産業>

・ 印刷業

ペーパーレス

・ カメラ産業

スマホの進化

・ はんこ

契約書のデジタル化

・ 新聞

ネットニュースの繁栄

・ 筆記用具

タブレット学習などによるデジタル化

江幡氏の講義を聞いての意見・感想（１）

市場やテクノロジーの変化を常に把握する必要性です。それによって、なにが求められているのか知り、それに応えることで出来ることを増やしていき三つの輪を増やすことが重要だと思いました。

これから就職活動が徐々に始まるに当たって自分が少しでも興味があれば、知識がほとんどなくても熱意だけで就職できるものだと思っていました。しかし、今回江幡さんのお話を通して個人のスキル重視、働くに当たって基礎力が身に付いているのは当たり前になっていくことに気づきました

今の業界は大きな会社がたくさんありますが、発想やひらめきだけで0から大きな会社に肩を並べる、また追い越すことが可能だということが分かりました。

仕事というものはお客様があつてのものだということをおっしゃっていたように、自分自身のためでなく誰かのためにするものであると学ぶことができました。

就職活動をする上で、大企業ばかり見ていた。また、これからの社会がどう変わっていくかという側面で仕事選びをしていなかった。そして、考えていなかったが必要なスキルを見に付け、経験を積むにつれて起業という選択肢も常に視野に入れていこうと思う

昔と比べ個人の能力が重要視されている中で、他人と比べ自分にある強みは何なのかを知っておかないとこれから社会では生き残っていけないと感じた。自分を分析することや、他人がどのような能力を持っていて、それと比べて自分の強みは何なのか見つけていきたい。

江幡氏の講義を聞いての意見・感想（２）

日本が置かれている状況とそれに対してどのようにしていくべきなのかを考えさせられました。アメリカ、中国、インドを例として海外の社会システムや企業の考え方を聞き、今の日本ではできない事を世界で注目を集めている企業は実行していると知りました。そしてこのままの日本の社会システムでは海外の企業に勝てないのではないかと考えられます。

成長スピードが早い会社は、社員の成長スピードも早いのではないかと考えた。事業が成長する背景には、社員の成長は間違いなく必要不可欠なものである。裁量が多く、それぞれの社員が前向きに取り組んでいるからであると思う。若いうちは、自分もこのような環境に身を置きたいと思う。

企業の求めている「時代に流されずに新たなことに挑戦する人材」になるためには、「自立」が必要であり、その自立には自分自身の人生のコントロールが影響していることが学べた。

私たちに必要なのは「個人の自立」である。つまり、終身雇用や年金などを当てにするのではなく、国や企業に依存せずに生活できる力を養う必要があるということだ。そのためには、成長できる環境に身を置いたり、投資についての勉強などの自助努力を怠ってはならないということを肝に銘じておきたい。

大きく分けて3つまなんだことがあります。
1つ目は当たり前の環境が続くことに疑問を持つことです。
2つ目は変化が必要な社会は新しいものを求めているということです。
3つ目は、私が経営システム工学科で学んでいる知識は非常に有益であるということです。

勉強ができて、それはコンピュータなどで補えてしまう時代になるため、これからは人間らしさを追及することが大切であるということを学んだ。

第3回 (11/10)

ポストコロナ時代のDXシナリオ

DX: Digital Transformation



磯村康典氏の講演要旨



【講演者】

磯村 康典氏
(1993機械)

(株)トリートメントホールディングス

執行役員 CIO

兼 BT本部 本部長

1.経営戦略とDX

- ・ 経営戦略ピラミッド(経営理念, ビジョン, 価値観, 全社戦略, 事業戦略, 機能戦略)に沿って考えることが大切.
- ・ 事業ポートフォリオの最適化⇒投資収益性と成長性の2軸で判断.

2.DX戦略

- ・ DX戦略は経営陣自らが推進しなければ成果は得られない.
- ・ SFL(販売、仕入、人件費)に関するグローバルプラットフォームを構築.
- ・ 7つの基本方針.
 - ① クラウドとサブスクリプション(BCP:事業継続計画にも役立つ)
 - ② ノンカスタマイズ(必要ならばベンダの標準仕様にする)
 - ③ BPO(Business Process Outsourcing)
 - ④ シングルサインオン, ⑤ユーザ・プロビジョニング、⑥マスター一元管理, ⑦ゼロトラストセキュリティなども導入
- ・ IT投資の効率化で浮いた費用をグローバル戦略やオーガニック・グロウス戦略に充てることができる.

3.就職活動に関して

- ・ DX時代に活躍するためには, ①グローバルコミュニケーションスキル, ②ITスキル, ③ファイナンスが重要.
- ・ 転職は必要な時にするものであり, 転職前提で就職活動を行う必要はない.
- ・ 変化を恐れず、自分も変化していくこと.

講義を聞いての意見・感想（１）

どのような企業・団体であってもまず上に立つ人が方向性を決めることがかなり大切になってくる。「それぞれの部門に丸投げするのではなく、経営陣が自ら推進しなければならない」という言葉の意味がすごくよくわかった。

現行の技術やサービスを組み合わせることで、0から1を生み出すのではなく、1から100や1000を生み出しており、IT技術の活用という視点の必要性を感じた。

ITがわかる人になることはもちろん、ITがわからない人に対しての紹介や、それをIT化させられるような人材になることが大切だと感じた。

企業の経営理念の話は、就活における企業探しの際にとってもよく使えそうなので、実際に企業のHPに行き、拝見してみたいと思います。

「教えるのは、知識・情報を与えること」、「育てるのは、きっかけを与えて自分で伸びさせること」を本日の講義で学びました。

育てるのは、きっかけを与えるというよりは、最大限その物事に熱中してもらえるようにする事だと思います。そして、育てる側（どう育てる事で熱中してもらえるかを考える）と育てられる側（物事を熱中できた時の体験、自分も育てたいと思う）は互いに成長できます。

私も、早く育てる人になれるよう努力します。

起きたことに対してダダをこねるよりもそれに対して、工夫して行動していくほうが自己成長になるし楽しい。このような経験をもっと増やして、成長したい。

講義を聞いての意見・感想（2）

家にいる時間が多い分ITスキルとファイナンスのことについては学ぶ時間が取れるため、この時期をチャンスととらえて学ぼうと思いました。

企業や個人にとって価値観を明確にすることは、すべき行動を明確にして成長するために重要なものである。

今回の講義を受講する前までは、外食産業自体は、正直そこまでIT化に取り組まなくても大丈夫なのではないかと思っていました。

現場を説得するには、コミュニケーション力が重要になってくる。そのため、デジタル社会に必要な人材になるにはコミュニケーション力が重要だと学んだ。

必要とされたら喜んで仕事を受けるという姿勢が今の若い私たちには必要なことであると思う。自己実現ややりたいことを叶えることが過剰に推奨され、そうでないものはやらない学生が多い気がする。

「コロナ下であるからこそ出来る事、今だから考えるべきこと」について知らされました。私は、今日から「今だから出来る事」「今だから気を付けること」について考え、今の生活から抜け出そうと思いました。

軸を決めてそれぞれの位置を分析すること。ものすごく簡単なことだが、普段から活用していなかったため、意識的に構造化することで自分のタスクの整理しやすくなると考えたので実践しようと思う。

第4回（11/24）

ロボティクス技術が変えていく これからの世界



挽野元氏の講演要旨



【講演者】

挽野 元氏

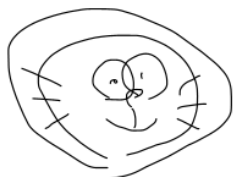
(1992電気・修士)
アイロボットジャパン(同)
代表執行役員社長

1. クラスルームに貢献する姿勢を身に付けよう
 - ・ 集中して傾聴する
 - ・ 場の空気を気にせずに、遠慮なく質問する
 - ・ 自分の意見を考えて発言する。他人の意見を素直に聞く。そしてグループで建設的な対話をする。
2. ロボットの分類
 - ・ エンターテインメント型: ドリカム系のドラえもんや癒し系のペッパー君
 - ・ 実用型: 産業用, 探査・調査用, 人の代替用
3. 人とロボット
 - ・ 人間が働くことで得られるものと、ロボットが働くことで得られるものを組み合わせて生活することで、よりよい世の中になる。
 - ・ AIやロボットは、人間の創造力、生産力をサポートする存在である。
4. 皆さんへの3つのアドバイス
 - ・ 英語には早く慣れよう
 - ・ これからはデジタルネイティブの時代だから、未来志向で行こう
 - 歴史から学び、将来の参考にする
 - ・ 世界の多様性を認識し、日本人の強みを誇りにしよう。
 - 集団の結束、誠実性と高い倫理観や粘り強く積み上げる力

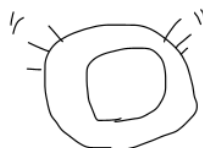
「どのようなロボットが登場したか？」

グループワーク #1(11/24) どのようなロボットが登場したか? 東京都市大学

チーム #	チームメンバー(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字)
8	



ドラえもん



ルンバ

- 工場の組み立て用ロボット。。。利便性の向上、ミスをなくす。
- ドラえもん。。。エンターテインメント、全世代に印象的
- ルンバ。。。便利、面倒くさいと思うことをやってくれる、かわいい

グループワーク #1(11/24) どのようなロボットが登場したか? 東京都市大学

チーム #	チームメンバー(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字)
2	

キャラクター

- ☐ ドラえもん
- ☐ アトム
- ☐ ガンダム

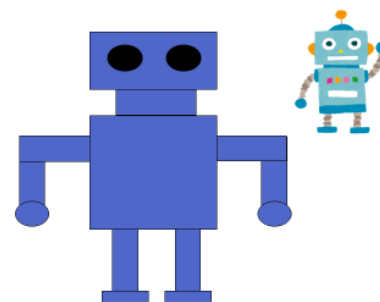
実世界で活躍する

- ☐ ASIMO
- ☐ ルンバ
- ☐ 工場で働くタイプ
- ☐ Pepper
- ☐ Aibo

グループワーク #1(11/24) どのようなロボットが登場したか? 東京都市大学

チーム #	チームメンバー(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字)
12	

- ガンダムのような、人が操作して動かすもの。人型(ドラえもんをイメージ)、おもちゃ、子供が夢で語る
- 人のため、役に立つことが目的。
- 自動化、工場に存在している。
- 人と違い労働時間に制限がない。また、定期的なメンテナンスを行うことで基本はずっと使える。



グループワーク成果物（2）

「これからの未来」

グループワーク #2(11/24) これからの未来、ロボットがどんなことをできるようになると、より良い世の中になるか？



チーム #	チームメンバ(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字)
5	

- ・ 介護の人手不足問題が懸念されるため、介護できるロボットを製作する事
⇒人間ではなくロボットがやる
- ・ コミュニケーションできるロボット。
⇒独り身の人が会話などをする事によって、うつ病などを防止できる事が可能になるから。
- ・ 人間と同じ頭脳を持つロボットが出たら、政治判断できるロボット
⇒感情の無いロボットによって、より良い政治が出来る(問題を起こさない)
- ・ 自動レジ、運転
⇒人件費削減(削減費を使い違う事業にお金をかける)
- ・ 家事をするロボット
⇒一週間、家事に6時間利用している為(人間のみの)、ロボットが行う事によって、違う事に集中出来るのではないかと考えた。

グループワーク #2(11/24) これからの未来、ロボットがどんなことをできるようになると、より良い世の中になるか？



チーム #	チームメンバ(代表者は赤字、他の学生は黒字、OB等オブザーバは青字)
14	

- ・ ドローンのような自動でデリバリーしてくれるロボット(人手不足解消)
- ・ 医療ロボット(難しい手術をやってくれる「神の手」)
- ・ 教育ロボット(課題解決や授業)
- ・ 時間を節約してくれるロボット(朝ご飯を作ってくれる)
- ・ スケジュール管理をしてくれるロボット
- ・ 安全、自動運転ロボット(行きたいところまで安全に運んでもらう)
- ・ コンサルタントロボット(アドバイスや体調管理等)
- ・ 魚を自動でとるロボット(漁師の代わり)
- ・ 危険な病気の看護をするロボット(感染症対策)

講義を聞いての意見・感想（１）

今まで私は人間ができることとロボットができることに関してそれぞれを切り離して考えていて、人間にできないことをロボットがする、ロボットにできないことを人間がするというだけの関係性だ感じていた。しかし、それぞれができることを組み合わせ考えていくことでそこに新たな価値が生まれる可能性があるのかもしれないと思った。

過去の事を鵠呑みにするのではなく自分自身でこれから先の未来はどのようなになるのか考えることが重要だと学ぶことができました。

社会に出ていくために必要なことはロボットのできないことを出来るようになることであると考えている。つまり大きく言うと、「案を出すこと」なのではないかと思っている。私は３年生であるため、大学ではこれから研究が本格化してくる。この「案を出す」という癖をつけるために、研究の時に意識をして行っていきたい。

本授業では、知らない人とメンバーになりグループ課題をする機会がある。最初の方は、堅苦しい雰囲気グループワークをしてしまい、あまり意見が活発に出なく、自由な発想の意見も出ずに終わってしまう事があった。しかし、グループワークをこなすうちに、軽い冗談を言って堅い雰囲気を払拭すること、相手が感情的であるか、論理的であるかを判断し、自分もそれに合わせて話すことで、相手に話やすいと思ってもらうように心掛けた。そうすると、チームメンバーが楽しそうに多くの意見を出し合うだけではなく、斬新な意見が出た。それは、「おかしいと笑われるのではないか」、「間違っているかもしれない」、といった不安をチーム環境によって払拭できたからである。チームの意見を否定しないといった考え方もあるが、それだけでは不十分で、意見の出しやすい環境作りが出来ているとは言えない。

講義を聞いての意見・感想（２）

人間ができることとロボットができることはそれぞれ別に存在しており、あくまでも人間の想像力や生産力をサポートする存在である。人間とロボットの役割をうまく組み合わせることで、私たちの生活や人生を豊かにすることができるということを今回の講義を通して学んだ。

将来の判断材料を増やすために、日々の読書や、情報収集を怠らないようにするべきであると改めて理解した。

ロボットは人間の創造力や生産力のサポートを行う存在でしかないということがわかった。

ロボットが仕事をしてくれることで、自分の時間が増える。この時間を有効に使うことが大切。学生の間なら、勉強や経験に時間を使いたい。社会人になったらどのようなことに時間を使うのか、想像つかないが有効に使いたい

ロボットと幸せに共存していくために、「人間らしさ」を大切にして、常に向上心を持ち創造的であろうと決意した。

働くことへの価値観は絶対的なものではなくて人それぞれ異なる。無いよりはあったほうが仕事への意義を見出せるかもしれないし、自分の存在価値を強固にできると考えている。働くことは人生の目的を達成するための手段であり、それらが充実していることが人生を豊かにする。

どの講義を聞いていても、英語やグローバル化といった、海外で通用する力を求められることが多かったので、日本人のコミュニケーションスキルを海外と比較する図はかなり興味深かった。日本の良さを知ってもらうためには、英会話が必須だが、日本の良さをもっと知るべきなのではないかと思った。

第5回（12/8）

学生時代と社会人時代の違い



服部健一氏の講演概要



【講演者】
服部 健一氏
(1966機械)

Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP,
Senior Partner, 米国弁護士, Juris Doctor

1. 人生は世代により目標が異なる。
 - ・ 学生時代は100点満点の世界
 - 部活動・ゼミなどでのディスカッションが社会に出たときに役立つ
 - 日本は全員平等で、天才を育てない。
 - ・ 20代は、100点満点 + α 、仕事を覚える時期
 - ・ 30代は、成果を出し、部下を育てる時期
 - ・ 40代は、人生で最も忙しい時期
 - ・ 50代は、熟達し、仕事を作り、創造する時期
 - ・ 60代以降も有資格者は仕事人生が続く。
2. 人生設計で大切なこと
 - ・ 人生は分析力向上のゲーム
 - ・ 人生の基本: 健康、体力、精神力
 - ・ 周りの人間がなぜそのような意見なのかを把握することで、敵も自分の味方にしていくことが大切
 - ・ 人生には転機がある。それをいかにして掴むかが大切
3. 学生へのアドバイス
 - ・ 与えられた課題に対しては、全てにベストを尽くすこと
 - ・ そのうち、好きなことがわかるようになる

Sung-Hoon Kim氏の講演概要



【講演者】

SUNG-HOON KIM氏

Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP
Associate, 米国弁護士, Juris Doctor

1. 特許弁護士になるまでの道のり
 - ・ 韓国出身。父親の仕事の関係でカナダ、フィリピン、メキシコなどで生活
 - ・ アメリカで電気工学の学士・修士を取得
 - ・ 韓国LGエレクトロニクスでリサーチエンジニア
 - ・ 米国に戻りロースクールに入学し、特許弁護士に
2. 特許弁護士になったきっかけ
 - ・ LGエレクトロニクスでDVDとBlu-Ray Discの標準化活動に従事
 - 多くの大手電子機器会社と連携
 - 自社の知財を保護し、自らも特許出願
 - 世界中の知財弁護士とやりとり
3. 特許弁護士になってよかったこと
 - ・ 最先端の技術を学べる
 - ・ 世界最大の市場で知的財産保護に携われる
 - ・ 技術的知識と法的知識の両方を活用できる
 - ・ 世界中のな興味深い人々に出会えること
 - ・ 法改正について大勢の前でプレゼンテーションできる
 - ・ 仕事と生活の調和が取れた上で、十分な収入もある

講義を聞いての意見・感想（１）

今回のお二人の講演で初めて米国弁護士という存在を知りました。

日本は全体として自主的に何かを起こすということをする人が少なく、そのような風潮はむしろ後ろ指さされるような文化である。変わり者が否定されるような文化だと日本はいつまでたっても成長できない。考え方は人それぞれ自由であるという文化を作れば、日本人はもっと創造性が豊かになるはずだ。与えられたことを確実にこなすかで判断せず、考え方や創造性で人を評価する社会になるべきだ。

失敗も成功もすべて何かしら得ることができる「経験」であると思うようになった。今後も失敗を恐れず人生を歩んでいきたい。

人生は“分析力”である。この事を自分なりに考えてみたところ、“常に考え続けろ”という服部さんからのメッセージなのではないかと思った。

私は過去に戻れたら、「考えろ、様々なものに疑問を持て。」とカコの自分に伝えたい。

自分中で弁護士のイメージは「法律」に携わる仕事なので文系的な知識を要するものだと思っていましたが、理系的な知識と両方を活用することによって自分の意見をよりの確に主張できるということ学びました。

自分が正しいと思うことでも、周りの視野を広げるために相手の意見や動機を聞き、その人が自分の味方になるように意識していきたいと思います。

講義を聞いての意見・感想（2）

今回学んだことは、「どの分析が大事というよりも、分析して考察する力が自分の力になっている」ということです。

人生の設計を今から考えておくことで今後の人生をより良いものにできると感じました。今の学生のうちにチャレンジをたくさんして自分のやりたいことを明確にし、社会人になってからはやると決めたことを極めて周りのライバルに勝つ気持ちで仕事をしていきたいと考えました。

テストなど百点満点の世界である学生時代は、ディスカッションの少ない一方通行の教育であり、自ら課題を見つけて解決する力を養うことができない。学生生活を終え社会に出ると、基本的に成果主義となり、目標を達成したら終わりではなく常に新たな課題を見つけ成長していくことが重要である。

韓国人のKimさんも日本人の服部さんも母国語でないにもかかわらず流ちょうに英語を話していた。この講義を受けて、今はまた英語の勉強を試みようと思う。今度は大学受験の時とは違うやり方で取り組もうと思う。例えばスピードラーニングや洋画を字幕で見るなどしたい。

嫌な出来事は、その瞬間は嫌でも、後々自分にとってプラスの考えに変えることができることを改めて学びました。

日米の特許の問題を解決するために、現在のキャリアを捨て、アメリカに渡ったということを聞き、行動力に年齢は関係ないということを知ることができました。

第6回（12/22）

**就職前に身につけておきたい
アントレプレナーシップ
（起業家精神）とは？**

大野高氏の講演概要



【講演者】

大野 高氏

(2001環境情報)

(株)東急エージェンシー事業推進本部

事業企画局事業推進部

兼オープンイノベーションラボ

ユニットリーダー

1. アントレプレナーシップ(起業家精神)とは？
 - ・ 新しい機会を見つけ出し、それを実現すること
 - ・ AI時代にも共存／重宝されるスキル
 - ・ 今、これを持つ挑戦者によるイノベーションが必要
2. 今、アントレプレナーシップが求められる理由
 - ・ スタートアップという成功モデルの出現
 - 0⇒1のテクノロジーと、1⇒nのグローバリゼーション
 - VC投資の暗黙ルール: 最良1社の企業の成功は、他の全ての投資価値に匹敵するか上回る
 - ・ 国内資金需要と人材供給に乖離がある
 - 日本のマネタリーベースは2020年9月時点で587兆円
 - 起業家出現率は世界平均12.3%に対して、日本は5.3%
 - ・ 世界経済と日本経済の成長に乖離がある
3. アントレプレナーシップの要件 (W.D. Bygrave, 2004)
 - ・ 10個のD: Dream, Decision, Doなど
4. 起業とは？
 - ・ 将来の財やサービスを発見し、評価・開発すること
 - ・ ①キャッシュを生み出す事業機会を見つけ、②資金調達をし、③事業投資をし、④成果を分配すること
 - ・ 起業のリスクは、不確実性の存在⇒成功のシナリオ作りが大切

白石健太郎氏の講演概要



【講演者】

白石 健太郎氏

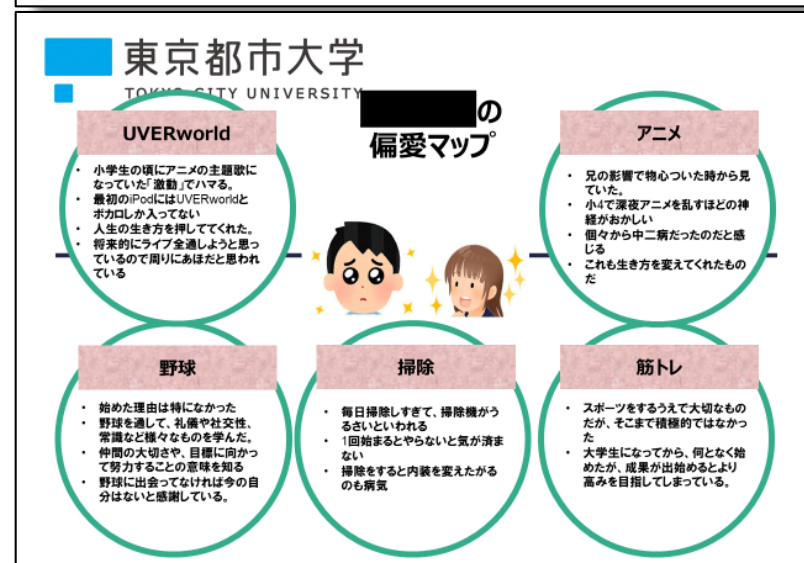
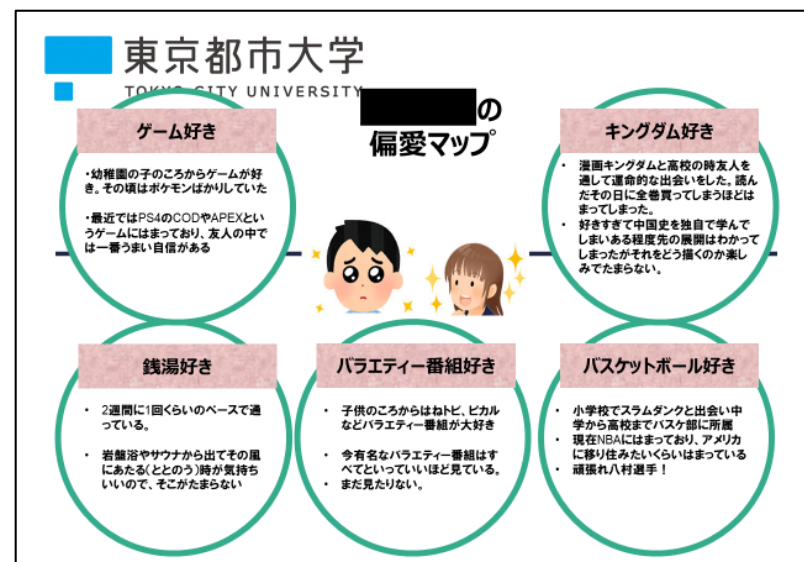
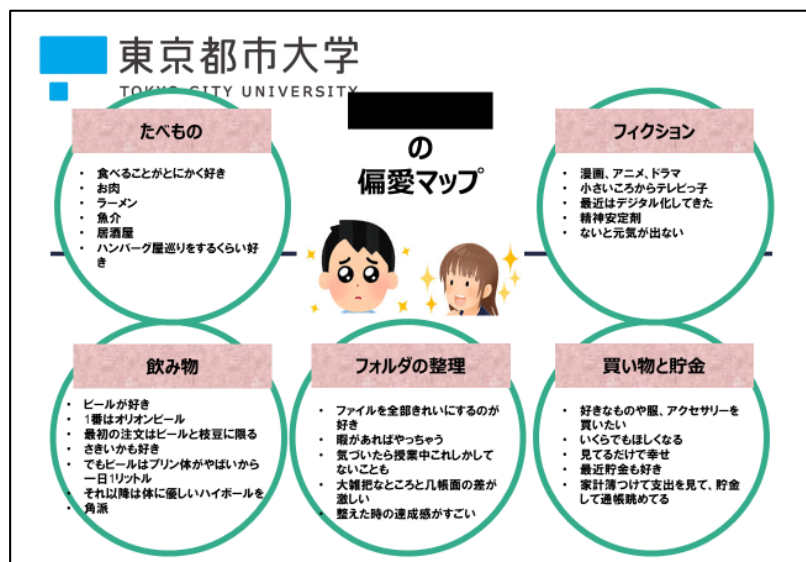
(2001環境情報)

朝日メディアラボベンチャーズ(株)

投資担当ディレクター

1. スタートアップとは？
 - ・ 短中期で一気に成長をめざすこと
 - ・ スタートアップにおける成長ステージは4段階
 - ①シード(創業期), ②アーリー(事業化期), ③ミドル(成長初期), ④レイター(成長後期)
2. 資金調達の前に考えておくべきこと
 - ・ なぜ資金を調達したいのか？
 - ・ いくら欲しいか？
 - ・ 資金調達をしないなら何をするか？
 - ・ 調達した資金で何をするか？
3. 資金調達をするための4つの方法
 - ・ ①利益(つくる)、②借入(かりる)、③株式(うる)、④募金(あつめる)
4. 資金調達の三種の神器
 - ・ ピッチ資料⇒12の必須項目
 - ・ 事業計画表⇒売上利益をどのように上げるか？
 - ・ 資本政策表⇒今までの株の動きなど
5. ベンチャーキャピタルの投資案件のうち、実際に出資するのは2%未満。
6. 「人が欲しいと思うものを作れ」(Startup School より)

「偏愛マップの作成」



参考図書: 齋藤孝著「偏愛マップ」(新潮文庫)

講義を聞いての意見・感想（１）

講演の中で10 個のアントレプレナーシップ要件というものを教えていただいた。その中でも自分に響いたものがある。それは、「先延ばしにせず迅速な決断を行う」、「儲けは目的ではなく事業成功の結果と考える」の3つだ。

特に「先延ばしにせず迅速な決断を行う」は現在の自分の弱い部分である。決断が難しいものほど先延ばしにしてしまう傾向がある。自分の慎重すぎる部分を改善して、挑戦マインドを強く持って行動していきたい。

今回の大野さんと白石さんの話を聞き、「起業」という選択肢が自分の中に増えました。

アイデアを生み出す源泉は自分の経験や知識であると思う。「いま使っているサービスがもっとこうならないか？」、「こういう風にできないのか？」などと疑問を持ち、知識、経験を積み、それらに対して色々なアプローチや掛け算をすることでアイデアを生み出すことができると考える

「起業をする」を目標にしていることによって、起業をしたいから事業を考えるという思考になっていました。

この思考のままでいくと、「起業をしたい」が先行してしまっている為、自分の好きな仕事ではなく、儲かる、稼げるなどの事業に手を出すと考える事から、会社が長く続かないように感じました。

以前までお金を多く稼いで貧しい人々にお金を渡すという目標を立てていましたが、自分がより熱量を注ぎ込める仕事をし、周りにいる人がいつも笑っている環境を作り、お金を多く稼いで貧しい人々にお金を渡すという目標に変更します。私の幸せは、お金よりも多くの人の笑顔です。この幸せを忘れず、物事に一喜一憂せず、これからも目の前の事と向き合っていきます。

講義を聞いての意見・感想（２）

私は現在就職活動をしていて、「どの企業に入ろう」と悩んでいましたが、「自分はこの人生で何がしたいんだろう」と考え直すようになりました。

熱中できるもの、好きな事なら、継続してそれをやり遂げることができ、それが社会でも認められる価値あるもの・サービスになるのではないかと私なりに解釈した。

偏愛マップの作成したことで、新しい自分の一面を発見できたように思えます。
偏愛マップを、実際に声に出して説明している際、自分自身の興奮ぶりに驚いていたことを良く覚えています。実をいうと、その後もしばらく震えが止まりませんでした。今回の発見をそのままにせず、何かの機会を活かせたらと思います。そのためにも、観察眼を磨いていきたいです。

やはり、最後には誠実さや情熱がカギになるのだろう。

コロナによって失われかけていた大学への熱意を取り戻すことができた大変良い講義だった。

就職前に、アントレプレナーシップの話を聞くことができてとても良かった。

アントレプレナーシップの要件を見ましたがこの要件をきちんと満たしている会社はどのくらいあるのかなと考えながら聞いていました。

自身が就活するにあたり、あらゆる項目で会社を吟味し後悔しない就職活動をすることが出来たらよいなと思いました

家にいることが最近が多いため起業やアイデアを考えるための参考図書として提示していた本を読みたいと思いました。

全体を通しての感想

「デジタル社会で活躍するために」

課題14-1 セッション#10

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 語学力 ・ コミュニケーション能力 ・ 積極性 ・ 経験 ・ 専門の技術・能力 ・ 行動力 ・ チャレンジ精神 ・ 創造性 | <p>できるように
なるために</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きなことに打ち込んでみる ・ 語学留学をする ・ サークル・ボランティア・アルバイト ・ 大学の講義+α ・ 日常的に関心を持つ ・ いろいろな物事に触れて、様々な観点から着手する |
|--|---|--|

課題14-1 セッション#7

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

- ・ やりたいことと出来ることは分ける
 - ・ 「個」の力を磨く、力をつける
 - ・ 積極的にコミュニケーションをとる
 - ・ 情報を共有する
- ・ 行動を起こす、一番煎じ
 - ・ 未来志向
 - ・ 自分の幸せを見つける
 - ・ ピンチ→チャンスへの変換
- ・ 他の人がやりたくないことをする。
 - ・ 視点を多く持つ。→異文化理解、価値の相対化
 - ・ 問題の発見→改善の余地がある、解決できる可能性
 - ・ 客観的な事実から仮説を立てる。
- ・ 自分の知らない世界や自分とは違う価値観で動いている場所に触れる
 - ・ 自分だけの「仕事観」を確立する
 - ・ 流行

まとめ

やりたいことと出来ることは分ける

理由:好き嫌い出来ることは必ずしも一致しない。まずはできることから結果を出すこと

行動を起こす、一番煎じ

理由:結果に直結するから、いくら考えたとしても、行動に結びつかないものは意味がない

他の人がやりたくないことをする

理由:やりたくないことをする→他との差別化、需要を保てる

自分の知らない世界や自分とは違う価値観で動いている場所に触れる

理由:特にSNSで、自分の居心地の良い環境で過ごしやすい。→考えが偏りやすい

各自がこれから大事だと思う3項目(1)

「挑戦する姿勢」、「分析力」、「継続力」。

①行動に移すこと、②成長できるチャンスを見逃さない、③物事をきちんと捉えて分析し、「不」の状態を変革すること

「時代の変化に対応していく力」「失敗を恐れずに挑戦すること」「前向きな思考」

- ・視点を複数持つことができる
- ・自分のできることとやりたいことは分けて考える
- ・仕事で得られるお金の構造を理解している

①「イノベーションを起こそうとすること」
②「豊かなコミュニケーション能力」
③「積極的に分析を行うこと」

①行動力や主体性、②対応力、③自分自身の強みを持つこと

- ・物事を考えて生み出す力
- ・英語力・コミュニケーション力
- ・自主性、行動力

①「引き出しを増やす」 第2回江幡さん
②「行動する一歩」 第1回佐藤さん、鈴木さん
③「ロボットとの共存」 第4回挽野さん

- ・一番に行動を起こす
- ・常に相手と Win-Win の関係を持つ
- ・分析力の

①人とのつながりを大切にする、
②グローバルに適応できるようにする、
③相手の土俵に立つ

①情報収集において自主性を持つ
②日常における気づきを大切にする
③コミュニケーション力

各自がこれから大事だと思う3項目(2)

- ・自分の能力を相手に示して説得力を高めること
- ・お互いのアイデアを持ち寄ってかけ合わせることでさらに価値のあるものを作れるかもしれない
- ・今までうまくいっていたからという考えで物事を進めてしまうと、時代に取り残されてしまう

「自分から行動すること」、「目標を臨機応変に変えていくこと」、「競争相手は敵ではなく、よきライバルとみなすこと」

コミュニケーション能力、挑戦、仲間を大切に

柔軟性(変化を恐れない, 分析する), 人間力(自信, 粘り強さ), 楽しむこと(自分の目標, 挑戦)

- ・積極的に取り組むこと
- ・将来や先を見通した計画
- ・異文化・多言語の理解

- ・新しいことに積極的に挑戦する.
- ・その土地の情勢を理解する.
- ・AI やロボットにはできない事を積極的に行う

- ①異文化、グローバル社会への適応能力を身に付けること
- ②常に向上心を持ち、創造的であること
- ③仕事に対してのやりがいを見つけること

- ・人生において経験値や知識を高めること
- ・コミュニケーション能力をつけること
- ・アウトプットをすること

- ・自分の好きなことを追求すること
- ・自己管理能力を高めること
- ・観察・分析力

特別講義全体を通しての意見・感想（１）

様々な企業で豊富なキャリアを積んできた方のお話を聞く機会というのはほとんどないので、本講義で色々なお話を聞けてとても勉強になりました。

起業や、社会に出てからの自分のキャリアについての考え方が大きく変わるきっかけになりました。

グループディスカッションを通して、他の学生の意見を聞くことが出来る為、このような考え方もあるのだと、とても勉強になりました。

コロナウィルスが感染拡大しているので無理ですが、できれば対面のほうが良かったです。

講義の動画をアップロードしてもらえたことで、レポートも書きやすかったし、聞き逃したところを改めて視聴することができたので良かったです。

講義の動画をアップロードしてもらえたことで、レポートも書きやすかったし、聞き逃したところを改めて視聴することができたので良かったです。

特別講義全体を通しての意見・感想（２）

起業家の方や社長とそうではない社会人との話し合い(パネルディスカッション)を見てみたい！

レポートを毎回添削していただけるのもとても良かったです。間違いに気が付くことも出来ますし、モチベーションも上がりました。

オンラインだったが総じて満足度の高い講演だった。デフォルトでオンラインを一部取り入れてもいいと思う。

毎回自己啓発されるととても参考になるお話ばかりでした。

自分の未来を変えてくれるような面白い話をたくさん聞きたいです

今回のことで、スケジュールやタスク、メールの管理が杜撰であり、苦手なことが分かりました。ESなどの提出物も作成したのちに提出しきることや、行事の日程は受け取ったその時に手帳にメモをするという当たり前のことを徹底していきたいと思います。就活が本格化する前に対策を打つことができるプラスにとらえて頑張りたいと思います。

毎回レポートを添削してくださったことで、自分の考えや知識に深みが出ました。

OBの方の話を参考にしてデジタル社会に求められる人材になるべく邁進していこうと思います。

多くの知識を私達に教えて下さり、感謝しております。これからもこの知識を糧に努力したいと思います。

講演者の詳細プロフィール



佐藤正春氏

(10/13パネラー)

- 1971年 武蔵工業大学(現 東京都市大学) 工学部 経営工学科卒業
- 同年4月 富士通株式会社入社 システム開発部配属
- 1971年～1986年 意思決定支援システムの開発と顧客支援
- 1973年～1974年 ハワイ大学共同研究プロジェクト参画
- 1986年 (株)富士通システム総研(FRI)設立に伴い出向
※1996年に(株)富士通総研に社名変更
以降, 製造業・流通業のコンサルティングに従事
- 2010年 (株)富士通総研 代表取締役社長就任
- 2012年 (株)富士通総研 取締役会長就任
- 2014年 (株)富士通総研 退職
※2020年にリッジラインズ(株)を設立し統合
- 現在
 - チェンジ・エージェント・オフィス正春 代表
 - (株)レイヤーズ・コンサルティング 顧問
 - (株)大森メソッド シニアアドバイザー



鈴木康弘氏

(10/13パネラー)

- 1987年 武蔵工業大学(現 東京都市大学)工学部 電気工学科卒業
富士通(株)に入社. システム本部流通システム配属.
- 1995年 富士通シンガポールに赴任. アジア圏サポートに従事.
- 1996年 ソフトバンク(株)に入社. 営業部マネージャー.
- 1998年 同社 ソフト流通営業部長に就任.
- 1999年 同社 新規事業執行役員に就任.
- 1999年 イー・ショッピング・ブックス(株)設立 代表取締役に就任.
- 2006年 (株)セブン&アイHLDGS. グループ傘下に入り.
(株)セブンネットショッピング(社名変更)代表取締役社長.
(株)日テレセブン設立. 取締役に就任.
(株)セブン&アイ・ネットメディア設立. 代表取締役社長に就任.
- 2014年 (株)セブン&アイHLDGS取締役CIOに就任.
- 2017年 (株)デジタルシフトウェーブ 代表取締役社長(現職)
SBIホールディングス(株) 社外取締役(現職)
- 2020年 日本オムニチャネル協会会長(現職)
情報イノベーション専門職大学 超客員教授(現職)



近著 : 「アマゾンエフェクト～究極の顧客戦略に日本企業はどう立ち向かうか(プレジデント社)」

挽野元氏

(10/13司会, 11/24講演者)

- 1992年 武蔵工業大学(現 東京都市大学) 大学院 工学研究科修士課程修了
 - 同年4月 横河ヒューレット・パッカード(株)入社
 - 1996年 ヒューレット・パッカード フランスに赴任
グローバル市場に向けた製品マーケティング・マネジメント担当
 - 1999年 フランスより帰国, 日本市場のノートブックビジネス立ち上げを担当
 - 2000年 アジア太平洋地域のノートブックビジネスの責任範囲を拡大
 - 2002年 HP社とCompaq社の合併に伴う日本法人の合併統合業務に従事
パーソナルシステムズ事業統括モバイルビジネス本部 本部長就任
 - 2006年 執行役員イメージング・プリンティング事業統括就任
米国HP社 Vice President 就任
 - 2010年 取締役就任
 - 2013年 ボース(株)代表取締役社長就任
 - 2017年 アイロボットジャパン合同会社 代表執行役員社長就任(現職)
 - 2018年 アイロボットコーポレーション アジア太平洋地域統括副社長を兼務(現職)
- (その他の現在の活動)
- 経済同友会
幹事, 教育改革委員会 副委員長, 学校と経営者の交流活動推進委員会 副委員長
 - 日本能率協会
会員, KAICAアワード審査委員



江幡哲也氏

(10/27講演者)

- 1965年 神奈川県出身
- 1987年 武蔵工業大学(現 東京都市大学) 工学部 電気工学科卒業
- 1993年 早稲田ビジネススクール マーケティングコース修了
- 1987年 (株)リクルート入社
 - ↳ 情報通信ネットワーク事業部にて様々な職種を経験
 - ↳ IT系を中心に5つの新規事業を立上げ収益化
- 1998年 同社経営企画室 中期事業戦略責任者
 - ↳ リクルート各事業をインターネットへシフト
 - ↳ 海外ITベンチャーへの事業投資, M&A, VC投資等
- 2000年 (株)オールアバウト創業 代表取締役社長 兼 CEO
- 2005年 JASDAQ証券取引所上場
- 現在 オールアバウトグループ代表
 - ↳ デジタルメディアを中心に, EC, 生涯学習, ヘルスケア
グローバルPR, ベンチャー投資事業等を事業を拡大
- 新経済連盟幹事, 農林水産省, 文部化科学省, 観光庁等委員経験多数〔講談社刊〕



磯村康典氏

(11/10講演者)

- 1993年 武蔵工業大学(現 東京都市大学) 工学部 機械工学科卒業
- 1993年 富士通(株) 入社
地方公共団体担当システムエンジニア
- 2000年 ソフトバンク(株) 入社
イー・ショッピング担当システムエンジニア
- 2002年 イー・ショッピング・ブックス(株) (現 セブンネットショッピング) 転籍
同社 開発部長
同社 カスタマーサービス室長
同社 情報システム部長
(株)日テレ7 ポータルサイト事業担当部長
- 2008年 (株)ガルフネット 開発本部長 常務執行役員
- 2012年 Oakキャピタル(株) 事業戦略室 執行役員
- 2016年 軽井沢エフエム放送(株) 代表取締役
- 2019年 (株)トリボールホールディングス 執行役員CIO(現職)
- 2000年 (株)トリボールビジネスソリューションズ
代表取締役社長(現職)



服部健一氏

(12/8講演者)

- 1962年 武蔵工業大学(現 東京都市大学) 付属高等学校卒業
- 1966年 武蔵工業大学(現 東京都市大学) 工学部 機械工学科卒業
- 同年 特許庁入庁
- 1972年 通商産業省大臣官房企画室
(田中角栄総理, 中曽根通産大臣の下で通産行政)
- 1979年 ジョージワシントン大学へ政府留学
- 1980年 特許庁調整課
- 1982年 特許庁審判官
- 1983年 特許庁退職, 弁理士登録
- 1984年 アームストロング・ニカイドー・マーメルスタイン
& クボーチェック法律事務所 アソシエート
- 1988年 米国弁理士登録
- 1989年 ジョージ・メイソン大学ロー・スクール卒業, 法務博士
- 1990年 米国ワシントンD.C.及びバージニア州弁護士登録
- 1991年 アームストロング・ウェスタン & 服部法律事務所 パートナー
- 2003年 ウェスタマン・服部・ダニエルズ & エイドリアン法律事務所
筆頭パートナー(現職)
- 東京都市大学でも毎年講演をしていただいています。



SUNG-HOON KIM氏

(12/8講演者)

EDUCATION

- Georgia Institute of Technology, Atlanta, GA
B.S. in Electrical Engineering, 2002.5
- University of Illinois at Urbana-Champaign, Urbana, IL
M.S. in Electrical Engineering, 2005.5
- University of Wisconsin Law School, Madison, WI
J.D., 2012.5

EXPERIENCE

- LG Electronics, Mechatronics & Storage Laboratory, Seoul, Korea
Research Engineer, 2005.8- 2009.8
- McAndrews, Held & Malloy, LTD, Chicago, IL Summer Associate, 2010.5-8
- Wisconsin Department of Justice, Madison, WI
Legal Extern for Consumer Protection Unit, 2010.9-10
- Oliff & Berridge, PLC, Alexandria, VA Summer Associate, 2011.5-8
- Dane County Circuit Court, Madison, WI Judicial Intern for Judge Julie Genovese, 2011.9-12
- Ladas & Parry LLP, Chicago, IL Legal Intern, 2012.2-3
- Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP, Washington, DC Associate, 2012.8-Current



MEMBERSHIP Korean-American Intellectual Property Bar Association

大野高氏, 白石健太郎氏

(12/22講演者)



大野 高氏

- 2001年, 武蔵工業大学 環境情報学科卒(1期生)
- 一橋大学大学院 経営管理研究科(修士)卒.
- 2001年, 広告代理店(株)東急エージェンシーへ入社.
- マーケティング部門, デジタルメディア部門を経て, 2016年より,
(株)東急エージェンシー事業企画局 兼 オープンイノベーションラボユニットリーダー.
 - マーケティング・広報を中心にアドバイザー・プランナーとして様々な行政・上場企業のプロジェクトに参画
 - MBA・FP資格を活かし, 社内外起業志願者へメンタリングを実施



白石 健太郎氏

- 2001年, 武蔵工業大学 環境情報学科卒(1期生)
- 2001年, 朝日新聞入社.
- 販売局, 新規事業部門のメディアラボを経て, 2017年より朝日メディアラボベンチャーズ(株)投資担当ディレクター.
 - 国内外のベンチャー企業40社以上の投資を実施

過去の特別講義 (アーカイブ2011～2019)

(組織名・肩書は講義当時のものです)



「グローバル社会における経営」 2011

(組織名・肩書は講義当時のもの)

TCU QUARLERLY No.180, 2011.7. PP.2-3より抜粋



この特別講義は、もともと知識工学部経営システム工学科2年生の授業として設けられていたもの。これを学部2年生だけではなく他の学年や卒業生にまで対象を拡大し、外部から講師を招こうと発案したのが鈴木威一教授でした。

「能力がないわけではないのに、新事業や難題にチャレンジしようとする気概がない。人を押しのけても前に出ようとする他国の若者たちの中では埋没しがちです。今や製造業や技術系の企業は外国に出るのが当然の時代であり、グローバル化は他人事でないことを学生たちに理解してもらいたと痛感しました。それには現場の先輩たちに具体的な話をしてもらうのが一番だろうと考え、『グローバル社会における経営』というテーマを設けたわけです。」

鈴木教授は、現職就任当初から「日本の若者を元気にしたい」という思いを強くお持ちだったとか。「大学は単位を取りに来る場所ではなく、本当に学びたい講義を受け、成長するための場。この理想に少しでも近づくことができれば」と笑顔で語っていただきました。

第1回（2011年度）

1. グローバル社会における経営の意味
鈴木威一氏(S41 通信)
元 PHILIPS 副社長
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授
2. All Aboutのご紹介とグローバル(中国)展開について
江幡哲也氏(S62 電気)
(株)オールアバウト 社長
3. 新規事業展開と中国企業との提携戦略について
鈴木浩二氏(S39 経営)
元 (株)トプコン 社長
現 サニージャパン(株) 社長
4. セコムの歴史と海外を含む事業展開
原口兼正氏(S49 通信)
元 セコム(株) 代表取締役社長
現 セコム(株)副会長
5. グローバルカンパニーとは ～コーニングの事例紹介～
三背彰壽氏(S53 経営)
コーニングジャパン(株) 社長
6. ICTによるビジネスイノベーション
佐藤正春氏(S46 経営)
(株)富士通総研 代表取締役社長
7. 日本的経営とグローバル資本主義
～日本の大手電機メーカーの本質的課題と対策～
佐藤文昭氏(S56 機械)
元 メリルリンチ日本証券(株) 副会長
現 (株)産業創成アドバイザー 社長

「グローバル社会における経営」 2012-2013

(組織名・肩書は講義当時のもの)

第2回 (2012年度)

1. グローバル社会における経営の意味
鈴木威一氏(S41 通信)
元 PHILIPS 副社長
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授
2. セブン&アイHLDGS. の成長戦略
鈴木康弘氏(S62 電気)
(株)セブンネットショッピング 代表取締役社長
3. 世界中に大地がある限り
増田文彦氏(S59 土木)
タマホーム(株) 専務取締役
4. 日本の製品開発・製造業の未来
南川明氏(S57 電気)
アイサプライ・ジャパン(株) 副社長
5. 地質コンサルタント企業の発展史と国際化への道のり
田矢盛之氏(S41 土木)
元 応用地質(株) 代表取締役社長
現 応用地質(株) 最高顧問
6. 40才で渡米、50才で米国法律事務所を起業
服部健一氏(S41 機械)
Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP
Senior Partner、米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士
7. "グローバルに挑戦する"
世界に通用する戦略を実行する
鈴木威一氏(S41 通信)

第3回 (2013年度)

1. グローバル社会における経営の意味
鈴木威一氏(S41 通信)
元 PHILIPS 副社長
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授
2. グローバル社会におけるコミュニケーションとネゴシエーション
山田直朝氏(S40 経営)
(株)木更津ゴルフ倶楽部 代表取締役
3. ホテルオークラの総支配人の条件
小川矩良氏(S45 機械)
(株)ホテルオークラ東京 取締役会長
4. モノでモノが売れるモノづくり
中村晋氏(S49 通信)
古河機械金属(株) 常務取締役
5. 偽物から本物へ ~産業普及の足跡~
向出靖弘氏(S38 機械)
油研工業(株) 取締役会長
6. 経営陣の視点と、その環境下での仕事のやり方
中川洋一氏(S48 通信)
SEMI Japan 代表取締役
7. あなたが、グローバル時代で活躍するために
佐藤興一氏(S51 通信)
セコム(株) 取締役副社長
8. スモールベンチャー 米国進出へのチャレンジ
押部弘氏(S54 機械)
(株)東設 代表取締役社長

「グローバル社会における経営」 2014-2015

(組織名・肩書は講義当時のもの)

第4回 (2014年度)

1. グローバル経営の課題
松崎吉衛氏
元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授
2. グローバル社会におけるICT企業のビジネスモデルと経営課題
磯村康典氏(H5 機械)
デジタルポスト(株) 代表取締役社長
Oakキャピタル(株) 投資事業本部 執行役員
3. 日本の電機業界の進路とグローバル経営
佐藤文昭氏(S56 機械)
元 メリルリンチ日本証券(株) 副会長
現 (株)産業創成アドバイザー 代表取締役
4. サービス産業の歴史とグローバル経営
原口兼正氏(S49 通信)
元 セコム(株) 代表取締役社長
現 セコム(株) 顧問 東京都市大学 客員教授
5. 世界で活躍する人の人間力の鍛え方
鈴木威一氏(S41 通信)
元 PHILIPS 副社長
現 (株)エグゼック 取締役会長
6. ソーシャルデスクトップの時代
～オールアバウトの戦略とグローバル戦略～
江幡哲也氏(S62 電気)
(株)オールアバウト 代表取締役社長
7. アップル対サムスン訴訟に見る米国陪審員裁判の特殊性
服部健一氏(S41 機械)
Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP
Senior Partner、米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士

第5回 (2015年度)

1. グローバル経営の課題
松崎吉衛氏
元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授
2. 欧・米・アジアの企業経営をして面白かったこと
鈴木威一氏(S41 通信)
元 PHILIPS 副社長
現 (株)エグゼック 取締役会長
3. 人、行動、スピード
押部弘氏(S54 機械)
(株)東設 代表取締役社長
4. 今日の経営者は何を考えているのか？
原口兼正氏(S49 通信)
元 セコム(株) 代表取締役社長
現 セコム(株) 顧問 東京都市大学 客員教授
5. リアルとネットの融合によりもたらされる新しい社会のあり方
鈴木康弘氏(S62 電気)
(株)セブン&アイHLDGS. 取締役執行役員CIO 兼
(株)セブン&アイ・ネットメディア 代表取締役社長
6. 米国産業・大学の知的財産戦略
服部健一氏(S41 機械)
Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP
Senior Partner、米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士
7. 海外生産革新コンサルティング
早川雄之助氏(S45 経営)
元 SONY台湾Personal Net-work Company 社長(総経理)
現 早川生産革新有限公司 社長(董事長&総経理)

「グローバル社会における経営」 2016-2017 (組織名・肩書は講義当時のもの)

第6回 (2016年度)

1. グローバル経営の課題

松崎吉衛氏

元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員

現 東京都市大学 経営システム工学科 教授

2. Boseから学んでいるグローバル経営 日米文化相違からの比較考察

挽野元氏(H4 電気・修士)

講演時 ボース(株) 代表取締役

現 アイロボットジャパン(同) 代表執行役員社長

3. IEによる海外コンサルで社会に貢献する

早川雄之助氏(S45 経営)

元 SONY台湾Personal Net-work Company 社長(総経理)

現 早川生産革新有限公司 社長(董事長&総経理)

4. 技術者から、管理職、経営者への道

原口兼正氏(S49 通信)

元 セコム(株) 代表取締役社長

現 東京都市大学 客員教授

5. ビジネス革新とICT

佐藤正春氏(S46 経営)

元 (株)富士通総研 代表取締役社長

現 チェンジ・エージェント・オフィス正春 代表

6. 世界に通用する”技術者の為のリーダーシップ論“

鈴木威一氏(S41 通信)

元 PHILIPS 副社長

現 (株)エグゼック 取締役会長

7. 米国憲法解釈にみる米国社会そして知的財産の特殊性

服部健一氏(S41機械)

Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP

Senior Partner、米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士

第7回 (2017年度)

1. グローバル経営の課題

松崎吉衛氏

元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員

現 東京都市大学 経営システム工学科 教授

2. 社員の成長と会社の成長は一体不可分

～人口減少社会の企業戦略～

原口兼正氏(S49 通信)

元 セコム(株) 代表取締役社長

現 東京都市大学 客員教授

3. 経験からわかった”外資系企業で成功する条件/日系企業で成功する条件“

鈴木威一氏(S41 通信)

元 PHILIPS 副社長

現 (株)エグゼック 取締役会長

4. IT業界の歴史とグローバル経営

磯村康典氏(H5 機械)

Oakキャピタル(株) 投資事業本部 執行役員

軽井沢エフエム放送(株) 代表取締役

5. 企業で使われる経営工学スキル

松崎吉衛氏

6. ビジネストラנסフォーメーション～求められるICT人材の要件～

佐藤正春氏(S46 経営)

元 (株)富士通総研 代表取締役社長

現 チェンジ・エージェント・オフィス正春 代表

7. 日米憲法と社会構造と知財制度の違い

服部健一氏(S41 機械)

Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP

Senior Partner、米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士

「グローバル社会における経営」 2018-2019 (組織名・肩書は講義当時のもの)

第8回 (2018年度)

1. 特別講義での学び

松崎吉衛氏

元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員

現 東京都市大学 経営システム工学科 教授

2. アマゾン・エフェクト! ~企業・個人はどう立ち向かうべきか~

鈴木康弘氏(S62 電気)

(株)デジタルシフトウェア 代表取締役社長

3. グローバル社会における経営者の目指し方

鈴木威一氏(S41 通信)

元 PHILIPS 副社長

現 (株)エグゼック 取締役会長

4. デジタルトランスフォーメーション

~新時代の人材とICTサービスの役割~

佐藤正春氏(S46 経営)

元 (株)富士通総研 代表取締役社長

現 チェンジ・エージェント・オフィス正春 代表

5. ロボティクス技術が人々の生活を変えていくこれからの世界

挽野元氏(H4 電気・修士)

アイロボットジャパン(同) 代表執行役員社長

6. 日本もアメリカも知らない日本人

服部健一氏(S41機械)

Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP

筆頭パートナー、米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士

7. コンピュータの進化と経営

原口兼正氏(S49 通信)

元 セコム(株) 代表取締役社長

現 東京都市大学 客員教授

第9回 (2019年度)

1. 特別講義での学び

松崎吉衛氏

元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員

現 東京都市大学 経営システム工学科 教授

2. 起業のオプションとリスク

木部泰明氏(H18 機シス)

(株)トレンドクア 代表取締役社長

3. 世界に通用する技術経営者になるための学生時代

~“日本の新卒一括採用はなくなるので準備せよ”と8年前に
予測した講師と語ろう~

鈴木威一氏(S41 通信)

元 PHILIPS 副社長、現 (株)エグゼック 取締役会長

4. デジタルトランスフォーメーション ~新時代の人材に求められる要件~

佐藤正春氏(S46 経営)

元 (株)富士通総研 代表取締役社長

現 チェンジ・エージェント・オフィス正春 代表

5. 米国弁護士になるまでの45年の人生設計

服部健一氏(S41 機械)

Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP

Senior Partner、米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士

6. 誰にでも稼げる力は養える

~経営者の目線と労働者の目線を合わせ持とう~

西尾繁子氏(H11 経営)

(株)エス・ジー・イー 代表取締役

7. 企業の持続的な成長とビジネスモデル

原口兼正氏(S49 通信)

元 セコム(株) 代表取締役社長

現 東京都市大学 客員教授



知能情報工学科
DEPARTMENT OF INTELLIGENT SYSTEMS

特別講義

「デジタル社会に求められる人材」

～東京都市大学出身の有名企業経営者及び起業家による特別講義～

プロジェクト マネージャー
アドバイザー
撮影・編集
TA

芝 正孝

鈴木 威一

薩川 宣昭

清 夏実

松崎 吉衛

芝 正孝

主催
後援

情報工学部 知能情報工学科
校友会・経友会・知湊会(旧経工会)



東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

© Tokyo City Univ., 2020-2021 All rights reserved.

知能情報工学科
DEPARTMENT OF INTELLIGENT SYSTEMS

60